

## 令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立出雲中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・ 基本的な知識の定着や、分野に差はあるが記述する生徒が増えている。
- ・ 実験結果を表やグラフにまとめ、判断し考察する生徒が増えた。

#### (2) 課題

- ・ 結果の数値を使って、分析、推察などの思考力を向上させる改善に努める。
- ・ 計算して答えを求めることを苦手としている生徒の支援、改善に努める。

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

#### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	全体的に目標値を下回った。基本となる知識・技能はある程度身につけているが、それを活用する力が不十分である。	/	/
第2学年	全体的に目標値を下回った。基本となる知識・技能の観点が厳しい。	知識・技能の観点は目標を下回り、他の観点もほぼ目標値だった。	/
第3学年	全体として目標値を下回り、特にエネルギー分野での不十分さが大きい。	知識・技能に関しては目標を上回った。思考力・表現力が目標値を下回った。	全体として目標値を下回り、特に思考・表現の観点に関しての不十分さが大きい。

#### (2) 分析（観点別）

##### ① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ものの溶け方や、動物のからだのつくりとはたらきに関する問題の正答率がかなり低く、基礎的な事柄の理解・定着が不足していると考えられる。	基礎的な事柄から、それを発展させて考え、自分の意見を述べる力が不十分である。	基礎的な事柄を、繰り返し反復して定着させるという姿勢が不足している。そのため、自信を持って発表したりすることが苦手である。

##### ② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「光の性質」、「火山」の正答率が著しく低い。植物、地震や地層などの分野は、定着している生徒も多かった。	動物の分類での記述問題に記入できていない、または正答できていない。考えを述べ表現する力が不十分である。	実験器具の使い方、とくに顕微鏡の正しい使い方の理解が不十分である。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学変化や電流に関する基本的知識が定着していない。比較的植物や動物、気象分野の理解は安定している。	化学変化や電流の分野における正答率が特に低い。実験で扱った現象を説明する力、記述する力が不十分である。	知識および思考の観点での不足が、結果として本観点の不十分さにつながっていると考えられる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生物の分野について、基礎的な事柄をワーク等で繰り返し学習したり、単元ごとにワークを学習して小テストなどで確認をし、内容の定着をはかっている。	ワークの章末問題の応用に関する内容を単元ごとに考えさせたり、実験の結果から、わかったことを班で考察させて発表させる機会を多くしていくよう工夫する。	普段の授業より、身近な内容を関連づけ行くように心がけている。それを継続しながら、応用や発展的な内容にも触れ、科学に関する興味・関心を高めていくようにする。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単なる受け身の学習ではなく、学習の進め方へのアドバイスなども含めながら、意識して言葉かけを続け、授業展開を行う。分野ごとの小テストなどで、基本的な知識の定着に努める。	自ら考えて表現できるよう班活動で考えを深める。さらに、個々が意見を表現できるよう、レポートの評価まで行う。正解のない問いや、活用に関する問いを取り入れ、互いに刺激し合う授業展開にする。	実験器具の使い方を正しく理解させた上で、実験、観察の時間を多く取り入れていく。必要性を感じさせた上で、主体的に学ぶ態度が高まる状況を作る。また、身近な現象を取り上げ、日常生活と関連づけさせる授業展開を心がける。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
エネルギー・粒子分野の現象について、基本的知識に加え、他の知識と関連付けた複合的理解が進むよう、形式の異なる小テストの実施やフラッシュカードの活用を試みる。	数値計算や、図示して説明する機会をより設け、個々がきちんと正解までたどりつけるよう授業づくりを行っていく。	正しい理解や思考の下、身の回りの事象と関連付けながら授業を展開していく。